

住友重、通期業績予想を上方修正 建設部門の大幅増益等により

2017年11月1日に行われた、住友重機械工業株式会社2017年度第2四半期決算説明会の内容を書き起こしでお伝えします。

2017年度第2四半期 業績サマリー

01 2017年度第2四半期 業績サマリー		2017/11/1		
		単位：億円		
■ ポイント		2016/上	2017/上	増減
(1) 受注高	受注高	3,366	3,858	492
・ 産業機械、環境・プラントを除き前年同期比増加。	売上高	3,178	3,553	375
・ 油圧ショベルの需要増。	営業利益	186	290	104
・ 変減速機、プラスチック機械、半導体関連機械の市況好調。	営業利益率	5.9%	8.2%	2.3%
(2) 売上高	経常利益	182	289	107
・ 上記受注増に伴い、産業機械、環境・プラントを除く部門で増収。	経常利益率	5.7%	8.1%	2.4%
(3) 営業利益	特別損益	△0	△1	△1
・ 産業機械、環境・プラントを除く部門で増益。	税金等調整前四半期純利益	182	288	106
特に建設機械部門は大幅増益。	親会社株主利益	131	198	67
	親会社株主利益率	4.1%	5.6%	1.5%
	為替レート(ドル)	¥105	¥110	¥5

別川俊介氏：それではご説明いたします。まず第2四半期の業績サマリーです。受注高は3,858億円、前年同期比492億円増。売上高は3,553億円、前年同期比375億円増。営業利益は290億円、前年同期比104億円増。営業利益率は8.2パーセントでした。

一番下に書いてありますが、為替レートは昨年の1ドルあたり105円に対して、今年の上期は110円でした。

セグメント別営業利益

01 セグメント別営業利益

		単位：億円		
■ 対前年同期比較		2016/上	2017/上	増減
<機械コンポーネント> 国内外の中小型およびロボット用精密減速機の市況堅調、大型も回復基調で増益。	機械コンポーネント	41	53	12
<精密機械> プラスチック機械、半導体関連機種の上増により増益。	精密機械	72	78	6
<建設機械> 油圧ショベルは需要増により、クレーンは日立住友重機械建機クレーンの連結化により大幅増益。	建設機械	△7	83	89
<産業機械> 産業用クレーン、タービンの売上減により減益。	産業機械	45	30	△15
<船舶> 高採算の受注残の売上により増益。	船舶	6	20	14
<環境・プラント> ボイラの売上減により減益。	環境・プラント	21	16	△5
	その他	9	11	2
	計	186	290	104

セグメント別の営業利益です。6つのセグメントがあり、4つのセグメントが前年比で好転いたしました。

とくに大きく好転したのが建設機械です。16年上期が悪かったということもあるのですが、需要の好転等々ありまして、大きく好転いたしました。

あとは船舶が20億円ということで、こちらも前年比でよくなっております。

一方、2つのセグメントが前年比で悪化しております。産業機械は30億円、環境・プラントは16億円ということで、（それぞれ）前年比で減少しております。

連結貸借対照表

01 連結貸借対照表

単位：億円

	2017/3末	2017/9末	増減		2017/3末	2017/9末	増減
流動資産	5,076	5,054	△22	負債	3,873	4,050	177
現預金	638	635	△3	買掛債務	1,473	1,663	190
売上債権	2,425	2,294	△130	前受金	322	352	30
たな卸資産	1,627	1,724	97	有利子負債	605	491	△114
その他	386	400	13	その他	1,474	1,545	71
固定資産	2,888	3,231	343	純資産	4,092	4,234	143
有形固定資産	2,277	2,316	39	株主資本	3,448	3,592	144
無形固定資産	152	462	310	その他の包括利益 累計額	538	522	△16
投資その他の資産	459	453	△6	非支配株主持分	106	120	15
合計	7,965	8,285	320	合計	7,965	8,285	320
				ネット有利子負債比率	△0.4%	△1.7%	△1.3%
				自己資本比率	50.0%	49.7%	△0.3%

※ SFW連結による総資産の増加額 519億円（暫定値）

こちらはバランスシートです。2点だけお話をしますが、2017年9月末のネットの有利子負債はマイナス1.7パーセントということで、現預金が有利子負債を上回る状況が続いております。自己資本比率はほぼ50パーセントです。

地域別売上高

参考 地域別売上高

単位：億円

	全社				油圧ショベル			
	2016年度第2四半期 (16.4-16.9)		2017年度第2四半期 (17.4-17.9)		2016年度第2四半期 (16.4-16.9)		2017年度第2四半期 (17.4-17.9)	
	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)
北米	561	17.6%	592	16.7%	162	24.1%	171	19.9%
ヨーロッパ	275	8.7%	263	7.4%	74	10.9%	55	6.3%
アジア(除く中国)	350	11.0%	344	9.7%	68	10.2%	90	10.5%
中国	237	7.5%	386	10.9%	98	14.5%	182	21.1%
その他	104	3.3%	132	3.7%	40	5.9%	60	7.0%
船舶海外	142	4.5%	175	4.9%				
日本	1,509	47.4%	1,661	46.7%	231	34.3%	303	35.2%
総売上高	3,178	100%	3,553	100%	673	100%	860	100%

※ 為替レート（ドル） 16年度第2四半期：¥105 17年度第2四半期：¥110

地域別売上高を、参考ということで記載しています。

やはりこちらで一番増えているのは中国です。全社的にも油圧ショベルも大きく増えております。あとは日本が全社のところで1,661億円とのことで、堅調に売上が伸びております。

2017年度業績予想

02 2017年度業績予想

- 建設機械、精密機械、機械コンポーネントの需要増に伴い、受注、売上増加。
- 2017年10月に株式併合を実施。

単位：億円

	2016上期 実績	2016下期 実績	2017上期 実績	2017下期 予想	2016年度実績	2017年度予想
受注高	3,366	3,745	3,858	4,142	7,111	8,000
売上高	3,178	3,565	3,553	4,247	6,743	7,800
営業利益	186	298	290	310	484	600
営業利益率	5.9%	8.4%	8.2%	7.3%	7.2%	7.7%
経常利益	182	301	289	301	483	590
経常利益率	5.7%	8.4%	8.1%	7.1%	7.2%	7.6%
特別損益	△0	△10	△1	△12	△10	△13
親会社株主利益	131	205	198	192	336	390
親会社株主利益率	4.1%	5.8%	5.6%	4.5%	5.0%	5.0%
1株当たり配当	7円	9円	8円	40円	16円	—
配当性向					29.2%	25.1%
ROIC (税引後)					7.3%	8.5%
【参考】ROE					8.7%	9.5%
繰込レート(ドル)	¥105 (実績)	¥115 (実績)	¥110 (実績)	¥110	¥108 (実績)	

ここからは通期の業績予想を申し上げます。

受注高は昨年の7,111億円から、8,000億円という上方修正予想をしております。

受注の増大に伴い、売上高も昨年6,743億円から7,800億円、営業利益484億円から600億円と今回は上積みで上方修正しております。

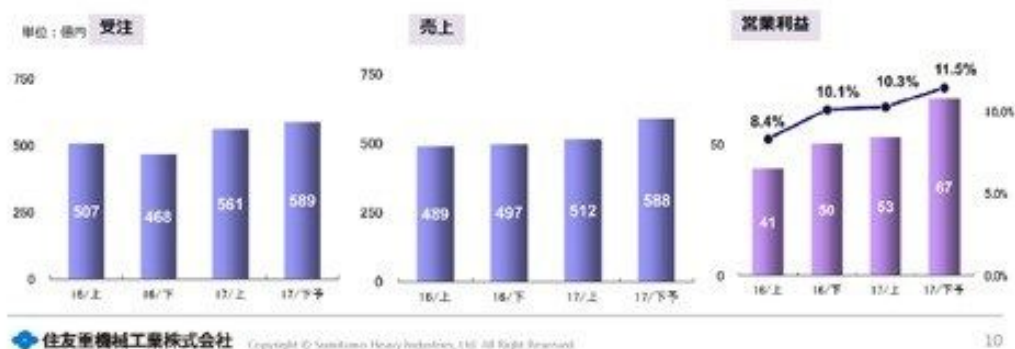
1株当たり配当は、昨年度の16円から、今年はすでに上期は8円と決めて、12月1日にお支払いいたします。

下期の予想は当初どおり8円ですが、株式併合をして、5株を1株としましたので、ここでは40円という記載になっておりますが、年間では前年比較ベースでは16円ということによって変えておりません。

機械コンポーネント

02 機械コンポーネント

- 17上期：** 国内、欧米、中国の中小型およびロボット用精密減速機の市況が堅調に推移し、また大型の市況も回復基調となったことから、受注、売上、利益ともに前年同期比増加。
- 17下期：** 中小型および精密は国内外において堅調継続。精密減速機の増産に向け積極投資の継続。大型減速機事業の構造改革を継続推進する。



これからはセグメント別のお話をします。

最初に機械コンポーネントです。受注、売上ともに少しずつ伸びておりまして、営業利益率も16年下期から10パーセントを超えてきています。

上に文章で記載していますが、中小型およびロボット用精密減速機の市況が堅調だったこと、それから大型の変減速機の市況もかなりよくなってきております。したがって、受注・売上・利益とも前年同期比増加ということでありませう。

精密機械

02 精密機械

<プラスチック機械>

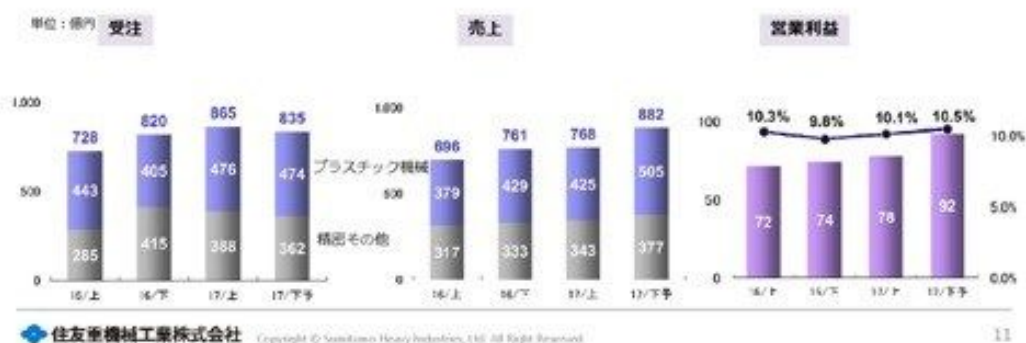
17上期：中国において電気電子関連需要が増加、国内および欧州も堅調に推移したことから、受注、売上ともに前年同期比増加。

17下期：中国の電気電子関連需要が一巡も自動車・容器関連、欧州の需要堅調継続見込む。

<精密その他>

17上期：半導体関連機種や極低温冷凍機が増加し、受注、売上ともに増加。

17下期：極低温冷凍機は堅調継続、半導体関連機種の受注は国内需要一巡を見込む。



精密機械です。プラスチック機械は、上期は（中国において）電気電子関連が非常に好調で、スマホ関係等が非常に増えました。

国内・ヨーロッパも堅調に推移しまして、受注、売上とも前年同期比で増加しております。下期も自動車・容器関連等で堅調を見込んでいます。

精密その他については、上期半導体関連、極低温冷凍機がかなり増加して、受注、売上とも増加しております。

このセグメントは（スライド）右の折れ線グラフどおり、安定して利益率10パーセントを計上しております。

建設機械

02 建設機械

<油圧ショベル>

17上期：中国および国内他で需要が増加したことから、受注、売上ともに前年同期比増加。

17下期：中国、北米の需要堅調。上期の国内での反動減、中国の季節要因、資材費、開発投資等のコスト増を見込む。

<モバイルクレーン>

17上期：日立住友重機械建機クレーン株式会社を連結子会社化したことから受注、売上ともに前年同期比増加。北米市場は回復傾向。

17下期：国内需要減、アジア他の海外市場での競争激化を見込む。



今回一番変動が激しかった建設機械です。見ていただくとおり、とくにショベル建機については去年の下期から受注が増えております。その結果、売上も増えております。

一方、モバイルクレーンは、今年からHSC（日立住友重機械建機クレーン株式会社）を4月から連結化したということで、受注、売上ともに増えております。

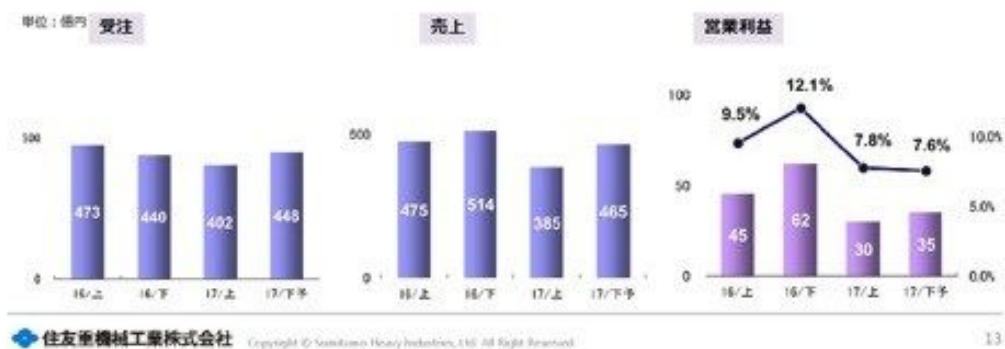
利益については先ほどのとおり、昨年は赤字でしたけれども、今年は6.6パーセントの利益率までできています。

油圧ショベルについては、中国および国内で需要が増加したということでありませう。中国、北米の需要堅調は下期も続くのではないかなと思っております。

産業機械

02 産業機械

- 17上期：** 鍛造プレスやその他機器が増加したものの産業用クレーンおよびタービンの減少により受注は前年同期比減少。
売上は、医療関連が増加も産業用クレーンおよびタービンが減少したことから前年同期比減少。
- 17下期：** 産業用クレーンでは、高炉・電力関連の更新投資、タービンでは、停滞していた海外自家発電案件の実現を見込む。

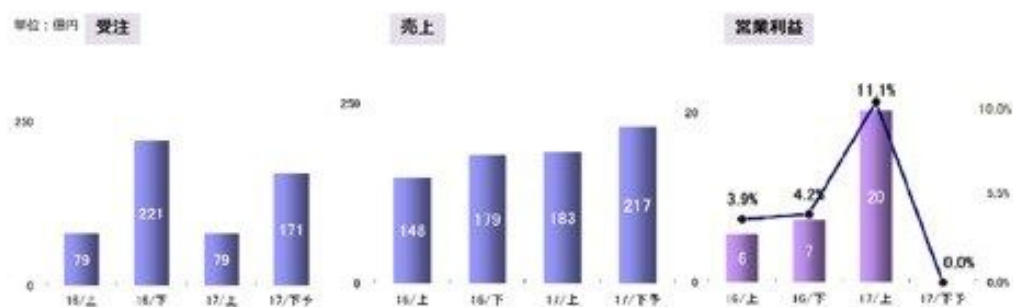


次に産業機械です。こちらは先ほどの説明のとおり、昨年度非常によかったという反動があるのですが、受注、売上、利益ともに減少しています。とくに去年よかった産業用クレーンおよびタービンの減少、自家発電向けの停滞がまだ上期に続いているということです。

船舶

02 船舶

- 17上期：** 市況低迷が継続し前年同期と同じく新造船の受注は0隻。
引渡しは3隻と前年同期比1隻増。
高採算の受注残が寄与し増益。
- 17下期：** 海運市況に一部回復の兆しもタンカーは回復遅れ。
現状建造規模の中で新造船受注と仕事量を確保する。



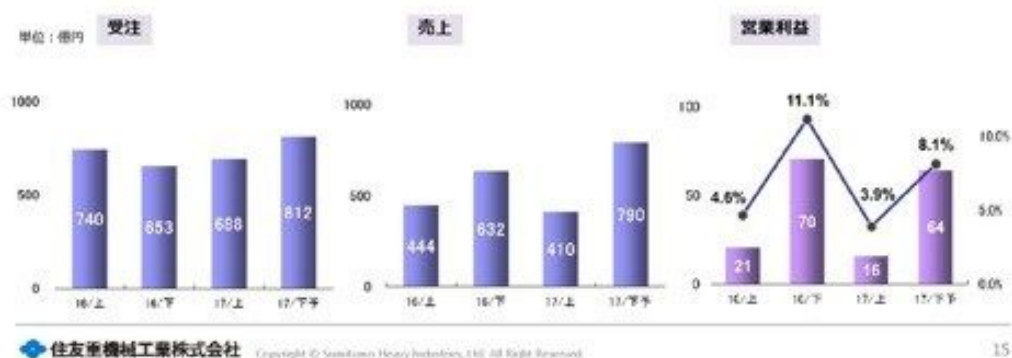
次に船舶です。上期は新造船の受注が0です。一方、受注残の内容がよかったので、上期は利益がかなり出ております。ここはいかに下期の受注を堅調に、仕事量を2・3年先にしっかり確保していけるかということでもあります。

環境・プラント

02 環境・プラント

17上期：受注は、エネルギープラント事業でバイオマス発電設備が増加も灰処理設備の減少により減少、水処理プラント事業で受注堅調による増加も、全体では前年同期比減少。
売上は、水処理プラント事業は増加したもののエネルギープラント事業はボイラ工事減少の影響により、全体では前年同期比減少。

17下期：ボイラは市況好調継続、工事進捗も着実に進行。
水処理関連、攪拌機等も堅調に推移。
下期より連結対象となるボイラ事業（SFW）を含む。



最後のセグメントは、環境・プラントです。こちらも前年比で悪化したというお話をしましたが、受注では去年灰処理設備という減多に受注できない大きな案件が受注できたことの反動もあり、（今年度の）受注自身は減って、前年比で減少しております。

ただ、下期のところに記載していますが、ボイラの市況が引き続き好調ですし、水処理、それから攪拌機等も堅調に受注できております。

あとは下期からSFW（ボイラ事業）がこの表に入っておりますので、受注が伸びたようなかたちになっております。

2017年度セグメント別業績予想まとめ

02 2017年度セグメント別業績予想まとめ

単位：億円

		2016上期	2016下期	2017上期	2017下期	2016年度	2017年度
		実績	実績	実績	予想		
機械	受注高	507	468	561	589	974	1,150
	売上高	489	497	512	588	986	1,100
コンポーネント	営業利益	41	50	53	67	91	120
精密機械	受注高	728	820	865	835	1,547	1,700
	売上高	696	761	768	882	1,457	1,650
建設機械	営業利益	72	74	78	92	146	170
建設機械	受注高	802	1,102	1,224	1,256	1,903	2,480
	売上高	888	937	1,256	1,274	1,825	2,530
産業機械	営業利益	△7	21	83	47	14	130
産業機械	受注高	473	440	402	448	913	850
	売上高	475	514	385	465	989	850
船舶	営業利益	45	62	30	35	108	65
船舶	受注高	79	221	79	171	300	250
	売上高	148	179	183	217	326	400
環境・プラント	営業利益	6	7	20	0	13	20
環境・プラント	受注高	740	653	688	812	1,394	1,500
	売上高	444	632	410	790	1,076	1,200
その他	営業利益	21	70	16	64	91	80
その他	受注高	38	42	38	32	80	70
	売上高	38	45	39	31	83	70
合計	営業利益	9	12	11	4	21	15
合計	受注高	3,366	3,745	3,858	4,142	7,111	8,000
	売上高	3,178	3,565	3,553	4,247	6,743	7,800
	営業利益	186	301	290	310	484	600

こちらは割愛させていただきます。

トピックス①新規連結会社の状況

03 トピックス① 新規連結会社の状況

単位：億円

セグメント	新規連結会社	17年度上期実績		17年度見込	
		受注高	売上高	受注高	売上高
精密機械	Persimmon Technologies	3	3	16	12
建設機械	日立住友重機械建機クレーン	147	187	330	400
環境・プラント	Sumitomo SHI FW (SFW)	-	-	210	240

※2017年度の連結期間は、Persimmon社は2Q以降（9ヶ月）、SFW社は3Q以降（6か月）

トピックスということで、新規連結会社の3社の状況です。一番上のPersimmon Technologiesの状況は、まだまだスタートしたばかりの会社ですので割愛しますが、先ほど言いましたが、日立住友重機械建機クレーン（HTC）が4月から当社の連結化になりました。

それから、Sumitomo SHI FW（SFW）がこの下期から連結化されておりますので、この分売上、受注に加算されております。

トピックス②-1 新製品（STAF）

03 トピックス②-1 新製品(STAF (Steel Tube Air Forming))

自動車ボディ・フレームの製造システム (STAF) の評価設備完成 (2017年9月)

- ・車体部品への適用に向けて自動車メーカーと検討を開始
- ・2018年度からの車体部品適用化に向けた設備の導入を目標
- ・売上高目標：100億円(2024年度)



従来工法(ホットスタンピング)と比較した製造工程イメージ。
STAFは専用の加熱工程や溶接工程が不要となるため、2工程で製造可能。



あとはSTAFという新製品を紹介させていただきます。

Steel Tube Air Formingという自動車ボディ・フレームの製造システムを、車体部品への適用へ向けて事業者メーカーといろいろ検討を開始しておりますが、9月に新居浜に評価設備を作りまして、車体部品メーカーさんといろいろな開発トライアルをすでに開始しております。

トピックス②-1 新製品 (建設用クレーン)

03 トピックス②-2 新製品(建設用クレーン)

日立住友重機械建機クレーン「SCX3500-3」

日刊工業新聞社主催

「第47回機械工業デザイン賞最優秀賞（経済産業大臣賞）」 受賞

← クローラクレーンとしては初の最優秀賞受賞

<特徴>

- ・コンパクトでシンプルな車体
- ・効率的な輸送、分解組立性
- ・環境・安全への配慮
- ・クローラクレーンとして初めて、
狭隘な現場に適した
後方小旋回仕様を選択できるように設定



HSCの連結化というお話をしましたが、350トンの大型クラス（のクレーン）を市場投入いたしました。この機種は機械工業デザイン賞最優秀賞（経産大臣賞）を獲得しております。

トピックス③ CSRの積極推進

03 トピックス③ CSRの積極推進

	実績	課題
商品・サービス	商品・サービスを通じた「当社ならではの」社会課題解決を事業部門毎に積極推進	商品企画段階に社会課題解決の視点を加えた顧客価値検討
環境 (E)	第5次環境中期計画の策定	・事業活動に伴う環境負荷低減 ・生物多様性保全への取組み拡大
社会 (S)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動の水平展開を実施 ・取引先向けに、CSR調達ガイドラインほかコンプライアンス説明会を実施 ・ダイバーシティ推進、特に女性活躍とワークライフバランス推進施策を展開 ・健康経営の取組み開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSR調達や、次世代教育支援などに重きを置いた施策の立案と実行 ・社員一人一人がいきいきと働くことができる人事諸制度の整備と教育の充実
ガバナンス (G)	コーポレートガバナンスコードへの積極的対応	適時開示情報のさらなる充実
社外発信	<ul style="list-style-type: none"> ・統合報告書を10月に発行 ・CSRレポートを9月に発行 	アナリスト、投資家との面談機会増大

CSRの積極推進ということで、これは当社だけではなくて日本の各企業が求められていることですが、当社はメーカーですので基本は商品・サービスを通じて「当社ならではの」社会課題解決を図っていくということですが、加えて、いわゆるESG（環境・社会・ガバナンス）ということで、いろいろな取り組みを始めております。

社外への発信も統合報告書、CSRレポートを発行いたしまして、アナリスト・投資家の方々との面談の機会も増やしていっております。

経営方針

2017年度下期（「中計19」達成に向けて）

- **堅実な経営を継続する～品質第一の経営の実践**
- **2017年度は
受注高8,000億円、売上高7,800億円、
営業利益600億円を見直し目標とする**
- **「中期経営計画2019」で定めた施策を
確実に実行する。**

最後になりますが、繰り返しになりますがけれども、この下期の予算、それから中計達成に向けて、基本ですが堅実な経営を継続していき、品質第一であるということ。

それから、17年度については受注8,000億円、売上7,800億円、営業利益600億円を見直し目標と公表いたしました。

中計2019年で定めているような施策、課題があるわけですがけれども、これを確実に実行して、この目標を達成してまいります。以上でございます。